

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	障害児通所支援事業 きぼうっこ山本	公表日	令和 8年 2月 6日
------	-------------------	-----	-------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
営 ・ 体 制 整	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	/	/	/	/
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	・必要職員数を配置しているが、配置替えなどにより不足してしまうことがあった。	・必要職員を配置する。
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・学校での課題については、事業所内で共有し、SSTの中で取り入れて練習できるようにしている。	・引き続き、全職員で情報共有して課題解決に努める。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ケース会議を実施している。	・引き続き、必要に応じてケース会議を開催していく。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・外部の専門家から定期的にコンサルテーションを受けて、業務改善に努めている。	・引き続き、コンサルテーションで学んだことを業務改善につなげていく
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法人内で実施している研修に参加している。	・訪問支援員のスキルアップを目指し、積極的に研修に参加する。
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		・子どもと保護者、学校の要望を聞き、計画に反映させている。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・放課後等デイサービスで直接支援にあたっている職員が訪問支援として子どもの学校の様子を観察し、課題抽出を行っている。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○		・必要に応じて、ケース会議を開催し、訪問先の先生のニーズ把握を行っている。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・訪問支援計画書を職員間で閲覧し、支援に当たっている。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・支援の中で行動観察によるチェックを行い記録している。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・具体的な支援内容になるように配慮している。	
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・前回の訪問時の子どもの様子や訪問先での話を必ず振り返り、訪問している。	
	15	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・子どもの様子や訪問先での話を必ず振り返り、ケース記録として残り共有している。	
	16	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		・訪問先の意向や状況などを優先して訪問するように心がけている。	
	17	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○		・訪問時の子どもの様子の記録や、先生の話をお聞きし、どのような支援が適切かを考え、事業所内の療育で練習の機会を設けている。	
18	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている(今年度は訪問回数が減ってしまった)。	・定期的に訪問し、適切な支援の見直しを行えるようにする。	
関 係 機 関 や	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・放課後等デイサービスで直接支援にあたっている職員が訪問支援している。	・引き続き、適任な職員が訪問に行くようにする。
	20	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	/	/	/	/
	21	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	/	/	/	/

保護者との連携	22	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		・外部の専門家からのコンサルテーションを受けている	
	23	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	24	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時や電話、連絡帳を通じてやりとりしている。	・日頃の子どもの様子をしっかりと観察し、訪問時に気付いたことを保護者にしっかりと伝えることができるようにする。
	25	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				
保護者等への説明等	26	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に説明を行っている。	
	27	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○		・訪問開始時に書面にて説明を行っている。	・趣旨が伝わりづらいことがあったため、引き続き丁寧に説明を行っている。
	28	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・子どもが安心・安全に学校に通うことができるように、学校生活における子どもの意向の聞き取りを行っている	・大人中心の計画になりがちであるため、再度、子供中心であるという認識を持ち、計画を立てていく。
	29	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○		・計画の説明を行い、同意を得ている。	
	30	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		・必要に応じて、面談や電話、メールなどのツールを利用して相談させて頂いている。	
	31	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			・現在のところ、きょうだい児の支援は行っていないが、行事に保護者、ごきょうだいの参加できるようにしている(希望者のみ) ・保護者会も年に数回開催している。	
	32	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・必要に応じて、面談の機会を設け、相談支援を実施している	
	33	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・法人のホームページや広報誌で情報を発信している。	
	34	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・契約時に、保護者に個人情報の取り扱いについて説明している(同意を得ている)	
	35	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・必要に応じて、メモ・絵カード・スケージュール等を提示し、分かりやすく伝えるように気をつけている	
訪問先施設への説明等	36	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○		・相談を受けた際は、必要な助言や支援を行うようにしている	・引き続き、学校への助言のみにとどまらず、学校側が実施している支援方法を共有するなど、児童が混乱しない方法での統一した支援を行っている
	37	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○		・必要に応じて、連携会議を実施している。	・会議の時間、日程、回数に制限があるため、決められた中で実施できるようにする。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○		・書面で報告を行っている。	
	39	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○		・子どもへの接し方、子どもの行動について応用行動分析に基づいて助言している	・引き続き信頼関係を築けるようにコミュニケーションを図る ・受け入れて頂くまでに時間を要することがあ
非常時等の対応	40	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・緊急時対応マニュアル(災害、事件、事故、自殺、苦情)を策定している。 ・訪問時には、訪問先の方法を優先する。	
	41	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・BCPを策定している。 ・訪問時には、訪問先の方法を優先する。	
	42	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットや事故等があった場合は、記録に残し、法人内、事業所内で情報共有し、改善案を検討している。	・今のところ、訪問先でのヒヤリハットは上がっていない。
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・外部講師を招いた法人内研修や虐待防止チェックリストを活用し、振り返りを行っている。 ・定期的に研修が行われ参加している。	
44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、訪問支援計画に記載しているか。	○		・訪問先での身体拘束については、訪問先の支援方法に従うが、現在、身体拘束を行っている児童はいない。 ・必要時には説明と計画書への記載を行う。		